

BX桂



BX:バイオトランスフォーメーション
バイオ技術を活用した社会変革技術

2024
10.16 [水]
14:00-17:00

参加費無料
要事前申込

会場

京都大学 国際科学イノベーション棟5F
[会場定員200名、ZOOMウェビナー同時配信]

プログラム

研究発表・オープンディスカッション
[会場(5Fシンポジウムホール)・オンライン配信]

- 13:30 会場受付開始
- 14:00 開会挨拶
- 立川 康人
[京都大学 大学院工学研究科長・教授]
- 14:10 研究発表
- 窪田 亮
[京都大学 大学院工学研究科 講師]
 - 秋枝 静香
[株式会社サイフーズ 代表取締役]
 - 宋和 慶盛
[京都大学 大学院農学研究科 助教]
 - 山田 耕資
[株式会社ブランテックス 代表取締役社長]
- 15:40 オープンディスカッション
- 16:20 閉会挨拶
- 横峯 健彦
[京都大学 工学研究科 副研究科長・
次世代学際院長・教授]
- 配信終了

展示 | 会場のみ(5Fホワイエ)

- 16:30 展示
- 17:00 閉会

申込締切

2024.10.15 [火]-17:00

お申込みは下記イベントページより
お願いいたします

[https://www.rac.t.kyoto-u.ac.jp/ja/
news-events/events/ind-day2024bxkatsura](https://www.rac.t.kyoto-u.ac.jp/ja/news-events/events/ind-day2024bxkatsura)



主催

京都大学 学術研究展開センター
京都大学 大学院工学研究科

共催

関西イノベーションイニシアティブ(KSII)
(公財)京都高度技術研究所 京都大学 成長戦略本部

後援

(公財)京都産業21(独)中小企業基盤整備機構 近畿本部
バイオコミュニティ関西(BiocK)
NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議

お問合せ

BX桂事務局[京大オリジナル株式会社]
E-mail:kensyu@kyodai-original.co.jp

※京都大学 学術研究展開センター(KURA)より
一部委託を受け本イベントの受付業務を代行しております。

KURA

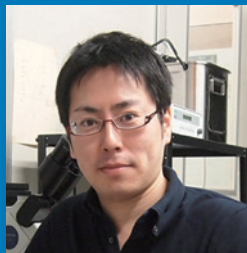


京都大学
KYOTO UNIVERSITY

「京都大学」次世代研究者——産学連携ネットワークイベント



[発表概要]



細胞から着想を得た超分子ヒドロゲル材料の構造と機能

窪田 亮（京都大学 大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 講師）

超分子ヒドロゲルは、有機小分子（ゲル化剤）が自己組織化したファイバー状構造体からなる水を含んだソフトマテリアルです。ゲル化剤を精密に分子設計することで、外部刺激に対する応答挙動（例えばゲル-ゾル転移）を超分子ヒドロゲルに導入できます。本発表では、複雑な化学システムである細胞から着想を得た多成分系超分子ヒドロゲルのネットワーク構造制御や薬物徐放機能について紹介します。



産学官で創出する新しい社会 ～バイオ3Dプリンタを用いた再生医療～

秋枝 静香（株式会社サイフューズ 代表取締役）

「細胞から希望をつくる!」

サイフューズでは、バイオテクノロジーとエンジニアリングの技術を融合させた独自の基盤技術を用いて、バイオ3Dプリンタ及び再生医療等製品の開発に取り組んでいる。産学官ならびに医工連携のパートナーシップ戦略により、新しい医療・治療法の実現、そして新しい社会の創出を目指す当社の取り組みについて、大学発ベンチャーとしての15年の歩みと共にご紹介したい。



酸化還元酵素と電気を融合したバイオミメティクス

宋和 慶盛（京都大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 助教）

酸化還元酵素は、常温常圧で作動する高度な触媒機能を持ち、生体内のエネルギー代謝において重要な役割を担っています。この反応の本質は電気の流れて、電気をコントロールすることで、様々な生体模倣技術（バイオミメティクス）に応用することができます。環境と調和する次世代アプリケーションとして期待されているバイオセンサやバイオ電池、CO₂バイオ資源化などに関して、最新の研究や社会実装に向けた取り組みをご紹介します。



都市型植物生産産業の創出への挑戦

山田 耕資（株式会社ブランテックス 代表取締役社長）

当社は、高度なモノづくり技術による持続可能かつ安全・高付加価値な食料生産の実現をビジョンとし、成長著しい植物工場産業において既存の概念を一新する世界初の生産システムを独自開発しました。世界的な人口増加や気候変動により持続可能な食料供給体制の構築は不可欠で、安全・高付加価値な食料も求められています。今回は植物工場の最先端事情をご紹介します。さらにはそこから起きる巨大な新産業とその意義をお伝えします。